

目指す学校像	児童一人ひとりの可能性を伸ばす学校 ~誰もが通いたい、通わせたいと思う学校~
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の基礎的・基本的事項の確実な定着と学びの自律化、個別最適化の実現 2 すべての子どもが、のびのび学校生活を送ることができる環境づくり 3 子どもをよりよく変容させ、地域・家庭からの信頼を得ることで、地域・家庭・学校の連携をより強化する 4 誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校づくりと自らを高めようとする教職員の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和7年2月14日
1	<p>【現状】 ○全国学力・学習状況調査結果(R5年度→国語・算数)について、さいたま市平均を大きく下回っている。 ○さいたま市学習状況調査結果(R5年度→国語・算数)について、3・5・6年生は両科目ともさいたま市平均を下回り、4年生は、国語はさいたま市平均を上回り、算数は下回った。 ○授業中は、なんでも言える雰囲気の中、自分の考えを発言する子どもの姿をよく見かける。 ○ノートを書く際に、誰もが読める字で書くように指導することがよくある。</p> <p>【課題】 ○各学力調査結果から、全ての子どもたちに、学力の基礎的・基本的事項の確かな定着がなされていない。 ○文章を理解する力(読解力)が、身に付いていないため、問の意味が理解できず、解決させることができない。</p>	<p>・学力の基礎的・基本的事項の確かな定着</p> <p>・学習の質的向上に向けた「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点による授業改善</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①ドリルパークや漢字・計算ドリルを活用し、既習事項の定着を実現する。 ②基礎学力タイム(朝学習)において学力向上ワークシートを活用し、国語の読解力と計算の基礎基本の定着を図る。 ③ICT機器や児童用タブレットを積極的かつ効果的に活用し、主体的対話的な学び及び思考を可視化した協働的な学びを実現する。 ④全国及び市の学習状況調査の結果の分析を基に市教委による学力向上カウンセリング研修を受講し、より効果的な手立てを設定することで、指導力の向上、基礎学力の定着を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ドリルパークや漢字・計算ドリルを活用した既習事項の定着を図ることができた。 ②学力向上ワークシートを活用し、国語の読解力と計算の基礎基本の定着を図ることができた。 ③教職員アンケート(R6新規実施)「授業におけるICT活用」に関する質問項目で肯定的評価90%以上となった。 ④学校評価保護者アンケート「わかりやすく、しっかり学べる授業の実施」に関する質問項目でA評価60%(R5:57%)以上となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ドリルパークや漢字・計算ドリルを朝の時間や授業での習熟で活用することができた。 ②基礎基本の定着を目指し、朝学習で学力向上ワークシートを活用した繰り返し学習に取り組んだ。 ③クラウドやプロジェクトを効果的に活用し、授業を行った。児童個々の学習計画や考えを可視化することで、思考を深め、協働的な学びを実施することができた。 ④全国及び市の学習状況調査の結果を分析し、市教委による学力向上カウンセリング研修を受講した。その内容を基に校内研修を進め、基礎学力の定着に向けた授業改善、指導力の向上を図ることができた。 ・学校評価保護者アンケート「わかりやすく、しっかり学べる授業の実施」に関する質問項目でA評価53% 	B	<p>○次年度も基礎基本の定着や主体的対話的な学び及び思考を可視化した協働的な学びの実現に向けた学校課題研究を推進していくとともに、ICT研修を校内研修の年間計画に位置付け、更なる授業改善、授業力の向上を図る。</p> <p>○全教員が年間1回以上授業を公開することで、互いに授業を見合い、協議できる体制を確立する。</p> <p>○管理職、主幹教諭による授業観察、事後指導を次年度も継続して毎学期行い、教員個々の授業力向上を図る。</p> <p>○全国及び市の学習状況調査の結果を共有するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修を受講し、校内授業研究会で設定した手立てを検証して授業実践を重ねていくことで、指導力の向上、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>・学年が上がるにつれて学力差が大きくなると思うが、根気よくドリル学習を続けさせたり授業改善を行ったりする教員の努力が成果として表れていると感じている。</p> <p>・タブレットを使った授業を進める一方で、鉛筆を使って紙に書くことの大切さを忘れず、学力の定着・向上に努めてほしい。</p> <p>・学力の基礎的・基本的事項の定着には、やはり家庭学習の習慣化も大切である。</p> <p>・多種多様な世の中を生き抜いていくために、今後も児童の個性を伸ばす教育を続けてほしい。</p>
2	<p>【現状】 ○どの子ども、日々明るく元気に生活できている。 ○休み時間や放課後は、校庭で活発に体を動かす子どもが増えてきている。 ○数名の登校渋りの子どもたちは、今年度登校できるようになっている。</p> <p>【課題】 ○ちょっとした出し合いで、相手に嫌な思いをさせてしまう児童がいる(いじめ案件になることも)。 ○授業中(特に体育、図工、家庭科)、正しい用具・道具の使い方ができていない児童が見られる。 ○雨の日など、落ち着いた廊下歩行や教室での正しい過ごし方ができない児童がいる。</p>	<p>・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実</p> <p>・学校施設での事故・怪我の未然防止</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①道徳授業や「いのちの支え合い」を学ぶ授業を中心とした心の教育と積極的な生徒指導を推進する。 ②心と生活のアンケートや児童面談、スクールダッシュボードにより状況把握を行うとともに、定期的にケース会議を開き、情報端末を活用して、組織的な対応ができる校内体制を構築する。 ③SC・SSW・さわ相・関係機関や保護者との連携により、児童個々のニーズに応じた教育相談を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価児童アンケート「児童のあいさつ・学校のきまり」に関する質問項目で、A評価54%(R5:51%)以上となった。 ②学校評価教職員アンケート「児童のトラブルへの対応」に関する質問項目でA評価90%(R5:86%)以上となった。 ③学校評価保護者アンケート「児童のトラブルへの対応」に関する質問項目でA評価55%(R5:52%)以上となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校公開日での道徳授業公開や管理職、主幹教諭による全学級の道徳授業の観察、事後指導、「いのちの支え合い」を学ぶ授業を実施し、心の教育を推進した。全教職員の共通理解のもと、あいさつや廊下歩行の改善に取り組み、積極的な生徒指導を行うことができた。 ・学校評価児童アンケート「児童のあいさつ・学校のきまり」に関する質問項目で、A評価47% ②心と生活のアンケートや児童面談、スクールダッシュボードによる状況把握を行い、ケース会議の開催や情報端末を活用した情報共有により、組織的な対応ができる校内体制を構築できた。 ・学校評価教職員アンケート「児童のトラブルへの対応」に関する質問項目でA評価63% ③SC・SSW・さわ相・関係機関や保護者と連携しながら、校内教育相談体制を強化し、児童に寄り添いながらトラブルや悩みに対応することができた。 ・学校評価保護者アンケート「児童のトラブルへの対応」に関する質問項目でA評価52% 	B	<p>○次年度も道徳授業や「いのちの支え合い」を学ぶ授業を中心とした心の教育を継続していく。学校公開日における全学級での道徳授業公開も継続して行い、保護者の理解、協力を得られるようにする。</p> <p>○生徒指導部を中心にあいさつのできる児童の育成や「ななこいこのやくそく」の見直し、学習規律の確立を図り、積極的な生徒指導を推進していく。</p> <p>○今年度新たに設けたスクールダッシュボード推進委員会を発展させ、学校DX推進委員会を設置して、情報端末を活用した校内の状況把握や情報共有を有効に活用できる校内体制を確立する。</p> <p>○配慮を要する児童について、ケース会議や保護者面談を重ね、全教職員での組織的な対応を行ってきたが、より有効な支援ができるよう、SC・SSW・さわ相との連携の強化、関係機関の積極的な活用を推進する。</p>	<p>・教員への信頼感が、伸び伸び安心して学校生活を送れる基本だと感じる。児童の話に耳を傾け、必要に応じてすぐに対処していくことでさらに信頼関係が構築される。</p> <p>・あいさつ運動では、児童が自主的にスローガンを決め、実践しているので児童達に元気に活力のあるあいさつをする輪が広がっている。</p> <p>・地域の方々を招いた学校給食や学校公開等、ぜひ保護者や地域住民の来校の機会を設定してほしい。それが教育理念に対する理解につながるのではないかな。</p> <p>・充実した体験活動を通し、うまくいかなかったことをよい経験として大きくしてほしい。</p>
3	<p>【現状】 ○教育活動を通して、「子どもをよりよく変容させることで地域・家庭の信頼を得る」ことをモットーに、全教職員で日々の指導に取り組んでいる。 ○学校運営協議会・いじめ対策委員会を年3回開催し、学校や児童の現状、そしてこれらについて活発な熟議を行った。毎回の会議録を学校HPに公開している。 ○学校行事は、計画通り行うことができていた。そして、多くの地域・保護者の方々に来校・参観してもらい、本校の教育活動への理解を深めてもらっている。</p> <p>【課題】 ○コミュニティ・スクールテーマ「笑顔で強くたくましい子」の実現のための、具体的な取組をより明確にし、実践に繋げていく必要がある。</p>	<p>・家庭・地域から信頼される学校づくりの推進</p> <p>・家庭・地域、学校の連携を強固にし、ともに児童を見守り、育ていく学校の実現</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①子どもをよりよく変容させることで、地域・保護者から信頼される学校づくりを推進する。 ②学校だよりや学校HP、学校安心メールを活用して積極的に情報を発信し、保護者・地域住民の教育活動への理解を得られるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価保護者アンケート「児童のあいさつ・学校のきまり」に関する質問項目で、A評価者70%(R5:67%)以上となった。 ②学校評価保護者アンケート「学校からの情報発信」に関する質問項目でA評価72%(R5:69%)以上となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①日々の教育活動や学校行事を児童のよりよい変容に繋げ、地域・保護者から信頼される学校づくりを進めることができた。 ・学校評価保護者アンケート「児童のあいさつ・学校のきまり」に関する質問項目で、A評価者59% ②学校だよりや学校HP、学校安心メールを活用して積極的に情報を発信することで、情報を共有し、連携を図ることができた。 ・学校評価保護者アンケート「学校からの情報発信」に関する質問項目でA評価60% 	B	<p>○保護者、教職員が、子どもたちのよりよい変容を実感できるよう、学校評価アンケートの結果を基に教育活動や学校行事の見直しを行うとともに、学校の取組を積極的に発信していくようにする。</p> <p>○学校だよりや学校安心メールでの情報発信や毎日の学校ホームページの更新を継続して、家庭・地域との連携を強化し、ともに児童を見守り、育ていく学校づくりを推進する。</p>	<p>・明るく元気にあいさつをしとれる児童が多い。</p> <p>・家庭・地域側からも学校へ情報発信することで、より強固な信頼関係を築いていけるものと思う。</p> <p>・今後も、児童が積極的に参加したくなるような、中高生がボランティア精神で活躍できるような、保護者・地域住民が一致団結できるようなイベントを開催したい。</p> <p>・学校運営協議会の来年度のメンバーについてよく熟考していただきたい。</p> <p>・2世帯住宅が増えてきているため、児童と高齢者との触れ合いの機会をもっていきたい。</p>
4	<p>【現状】 ○なんでも言い合える職場環境の中で、それぞれの職員が自分の役割を自覚して、日々の職責に当たっている。 ○大きな仕事は割り算(分担)の考えを皆で共有し、それに取り組むことができる。</p> <p>【課題】 ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○教職員としての資質を高めるための、自己研鑽に取り組むための余裕がない。</p>	<p>・自分に自信をもちながら、生き生きと児童に指導できる教職員の育成</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①エバンジェリストやICTサポーターを活用したICT研修を行い、教育活動の充実、業務改善を実践する。 ②人事評価制度や研修の受講奨励により、教員一人ひとりが目標を設定し、年間を通して研修や授業改善に取り組むことで各自の資質向上を図り、学校の教育力向上に繋げていく。 ③居心地がよく、風通しのよい職場環境づくりを推進する。(衛生委員会での協議、トイレ・更衣室の整備・美化、教職員間の相談しやすい雰囲気づくり) 	<ol style="list-style-type: none"> ①エバンジェリストやICTサポーターを活用したICT研修を年間3回以上実施できた。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて、研修や授業改善に取り組む、90%以上の教員が目標達成を実感することができた。 ③教職員アンケート(R6新規実施)「居心地のよい職場づくり」に関する質問項目で肯定的評価90%以上となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①毎学期、エバンジェリストやICTサポーターを活用したICT研修を行い、教職員全体のスキルアップを図ることができた。 ②人事評価制度や研修の受講奨励を活用して、教員一人ひとりが目標達成に向けて、年間を通じて取り組み、80%の教員が目標達成を実感することができた。 ③教職員アンケートや校内衛生委員会の取組により、職場環境の改善を図ることができた。教職員間のコミュニケーションを大切にしたい、風通しのよい職場環境づくりを進めることができた。 ・教職員アンケート(R6新規実施)「居心地のよい職場づくり」に関する質問項目で肯定的評価(1学期)100%(2学期)100% 	B	<p>○エバンジェリストやICTサポーターによる研修を年間計画に位置付けるとともに、今年度新たに設置した学校行事検討委員会を継続し、教職員のスキルアップ、学校の教育力の向上、教職員の業務改善の取組を発展させていく。</p> <p>○職場環境の改善やコミュニケーションを大切にしたい風通しのよい職場づくりを進めるとともに、教職員一人ひとりが、自身の目標達成、課題解決に尽力し、気持ちよく働くことのできる職場環境づくりに取り組んでいく。</p>	<p>・風通しがよく、なんでも話し合える本校教員のよい職場環境が、児童の心にもよい影響を与えているのだろう。</p> <p>・働き方改革の中、教員の成果に対して正しい評価をすることで仕事へのやりがいも高まると思う。</p> <p>・目指す児童像の具現化に向け、教職員の個々の思いを十分に生かして学校運営にあたってほしい。</p>

